

学校だより



市川市立平田小学校

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する そして共に幸せ～

いなほ  
稲穂

学校教育目標

夢をもち、たくましく生きる  
子どもの育成

No.10

令和4年7月20日

校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/hirata-sho>

## 「自分にはよいところがある！」と自信を持って言える子に

左の『ぼくはなきました』は、くすのき しげのりさんの絵本です。この本のあとがきに、次のような文章が添えられています。

“自分のいいところが見つけれないそうた君。友達のいいところはたくさん見つけれられるのに。そうた君は泣きそうになります。そんなそうた君のいいところを先生は見つけてくれました。それは、「友だちのいいところをたくさん見つけれられる」ことでしたね。一人一人いいところがあります。皆さんも自分のいいところが見つけれられますように。”(原文は、全てひらがな)

大人でも「自分のよいところを教えてください」と投げかけられたら、ちょっと困惑してしまいます。日本人の特性(?)というか、控えめであることを美德とし、そして「あの人は奥ゆかしい」とか「謙虚な人だ」と言って称えることがあります。また、自己アピールを「恥」と捉え、「沈黙は金」という文化が日本人の根底にあるような気がしますが、それでよいのでしょうか。

では、「自尊感情」を高めるためにどうするかという壁に突き当たります。本校の重点の一つでもある「自己肯定感」「自己存在感」「自信」に共通する課題です。6月初旬に児童対象に行った「生活アンケート」に“自分には良いところがある”と問う設問があります。5割の児童が肯定評価する一方で、14%が「ない」と回答しています。否定的な自己評価の割合は4分の1を占めます。個別に面談をしたり根拠を明らかにしたりしながら考え得る手立てを講じ、今回のアンケート結果を待ちたいと思います。

自分では気づくことができないと言っている子もいますし、年齢があがっていくと素直に「私のよいところはここです！」と言えなくなってくるのもわかる気がします。思春期には、概して自分の長所より短所(コンプレックス)の方が心の中を占めてしまうものですが、同時に『他を見る目』も育ってきます。「あの子はこういうところはちょっとダメだけど、意外と優しいところがあるんだ」「話し合いの時、時々よい意見を言ってくれるんだよなあ」など、まわりの友達のことをよく見て評価している様子が窺うことのできる時期です。



学級でも「エンカウンター」といって、本音で話したり、互いを認め合うアクティビティをしたりすることがあります。この活動で友達のよいところ探しをすると、子どもたちは大人が見ている以上にたくさん友達の長所を知っていることに驚かされます。大人の知らない意外なエピソードが明かされることだってあるくらいです。自分のよいところを見つけて伝えてもらったとき、子どもたちはちょっぴり恥ずかしそうで、でも内心とても嬉しく思っているように見えます。「ピア・サポート」もそうした人間関係づくりの一つです。

大人になっても、褒められることはやはり嬉しいことです。「自分はそんなふうに見てもらえているのか」と、自尊感情も高まりそうです。学級も、家庭も、私たち大人同士も、お互いの長所を素直に認め合い、伝え合い、高め合える関係でありたいものです。

先の絵本は、“先生に良いところを見つけてもらったそうたくん。『ぼくはうれしくて……。ほんとうにちょっとだけ なみだが でてしまいました。』”と終わるのです。



交通事故・ケガ・熱中症・感染症などに気をつけて、「何かをやり切った」「挑戦した」と胸を張れる、楽しい夏休みにしてください。

☞ 8/6～15は学校無人期間(連絡先はしおり参照)			19	月	(祝)敬老の日
1	木	始業式、3校時日課(11:10 下校)	20	火	生活習慣チェック回収
2	金	給食開始、4校時日課(13:10 下校)	21	水	校内授業研究会、SC相談日
5	月	平常日課開始	23	金	(祝)秋分の日
6	火	身体計測、食育出前授業⑥	26	月	学校運営協議会
7	水	身体計測、委員会活動、SC相談日	27	火	まなびくらぶ③
12	月	4校時日課(13:10 下校)～16日迄	28	水	クラブ活動
13	火	平田っ子生活習慣チェック開始	30	金	まなびくらぶ④
14	水	定例研			

丸数字は学年です

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。結果は2学期にこの紙面でお伝えします。

## 校内授業研究会を行いました

今月は、たんぼぼ学級と第6学年で算数科の授業研究会を開催しました。全教員で参観して学びを深めました。講師には特別支援に携わる先生や算数科を研究してきた先生にご指導いただきました。学校全体の授業力アップのために、夏休みも含めて様々な研修を計画的に行います。

たんぼぼ学級では、「実践的な活動の中で生活体験を増やすことで、学んだことを日常生活に生かす児童を育てる」ことに、単元『時刻と時間』で取り組みました。一方6年生は、「既習事項を生かすための工夫をすることで、自力で問題解決する児童を育てる」ことを意識して、単元『円の面積』で実践しました。2学期も日々の実践を大事にします。



↑ 学んだことを使えるように教室掲示の工夫も欠かせません(2年)



↑ 県文化財課の方に勾玉づくりを教えていただく6年生(7/19)



**第八中学校では制服の見直しを進めています**

経済性や機能性、そして多様性を考えて、冬用のジャケットやスラックスなど、現在3案に絞って検討をしています。職員だけでなく、生徒の意見も反映させます。また、来年度四月からの切り替えを予定していますので、ブロック内小学6年生の意見も聞きたいといっています。九月になつてすぐ、意見を吸い上げる機会が用意されます。九月に女子もスラックスを選択できるように配慮されています。